

立山に降る雪の量

立山一帯に降り積もった雪は、春から夏にかけて雪どけ水となって、常願寺川をはじめ早月川、片貝川、黒部川などの河川に流れこみます。これらの河川を流れる水は、稲作にも利用されており、水田に水が必要な時期に立山の雪どけ水が水を供給してくれます。

立山など標高が高い山に積もった積雪は春まで水を蓄えてくれるダムの働きをしており、「白いダム」ともよばれています。

写真は、立山の室堂平で毎年4月の中・下旬に行っている積雪調査の様子で、富山大学を中心に富山県立大学、九州大学、金沢大学などたくさんの大学の教員や学生が参加し、私も参加しています。

2011年4月の調査時には積雪は6.5m程ありました。室堂平の積雪の深さは年によって異なりますが6m～8m程あります。

この調査では採取した試料から降水量の計測も行います。2011年4月の積雪は、降水量に換算すると3,000mm程になりました。6.5mの積雪を水にすると約3mの深さになるのです。

図は2005年～2011年の調査結果から室堂平での積雪量を降水量に換算したもので、少ない年で2,443mm、多い年では4,002mmにもなりました。

富山地方気象台での年間降水量の平年値は、2,300mmなので、室堂平では冬に積もった雪だけで、平野に降る雨や雪の1.1～1.7年分も降っていることとなります。

立山に大量に積もる雪は、富山の豊かな水の源となっていることが分かります。



写真 室堂平の積雪調査(2011年4月17日)

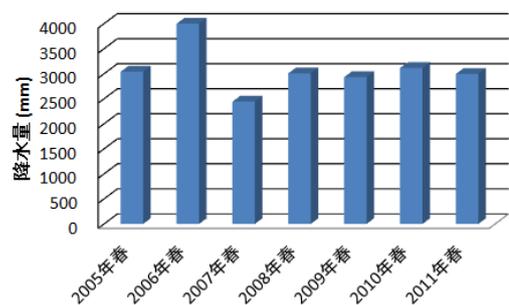


図 室堂平の積雪から計算した冬の降水量の推移